

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和5年7月7日(金) 第3委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子(遅参:午後1時10分~) 國利知史 松本みのり 林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 山崎啓介議会事務局主任
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - ・議員定数に関する各委員の意見〔人口(密度)、面積〕
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午後1時00分 開 議

○政野太委員長 ただいまより第10回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会したいと思います。藤木委員より遅参届が出ております。出席委員6名でございます。会議に当たりましては傍聴、録画を許可しております。それでは、直ちに協議事項に入ってまいりたいと思います。

1 付託事項の審査

・議員定数に関する各委員の意見〔人口(密度)、面積〕

○政野太委員長 まず1点目、本日、付託事項の審査なのですけれども、前回の委員会のときに、ある程度絞った内容で議論をしていこうということで、今回は定数に関すること。それに関して、人口、あるいは、人口密度、あるいは、市の面積、こういった視点から皆様方の御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。1人ずつ、また、前回と同じように、この視点の人口密度、面積の視点からの御意見を伺いたしたいと思います。よろしいでしょうか。福山委員。

○福山権二委員 人口密度、面積、いずれも重要な判断基準になると思うので、どれが1番大事なのかということについては、なかなか言えないという感じはしております。今のところ、議員定数に関する、一定の当議会の判断は、前に議長が報告されたように、庄原市議会は委員会の活性化を図りながら、議会の取り組みをさらに前進させると。中心は委員会を活性化させるということがあって、3つの委員会が必要だということで判断してきたので。今のところ人口密度、面積、そう判断をしたときの条件と、もちろん面積は当然かわっておりませんが。人口密度も高齢化が進んで、人がどんどん少なくなるのですが。かえって密度が少なくなるということである、人口が減り、密度が薄くなるということでは、余計に議会の活性化については、定数をそれによってふやすということは難しい。減

らすということについては、重要な根拠にならないので、今のところ庄原でいえば、人口、面積、重要なものだけれど、それはかわってないことと、議会のこれまでの議論の中で、どれが優先するということは、今のところないのではないかと。この人口と面積を最優先するということについて、あるいは、これを尊重して、新たな領域を広げようというのは、議会の活性化に、前進にはならないという感じがします。

○政野太委員長　もし可能ならですけども、考えていっちゃればなのですが、今の面積、今の人口に対して、今、20名という定数が定められておりますけれども、それについて何か御意見ございませんでしょうか。

○福山権二委員　そういう視点でいうと、この面積が広いということで、定数は少ないのではないかと感じています。これだけの面積を持つと、議員定数はもっとふやしてもいいのではないかと思います。

○政野太委員長　具体的に、例えば、数字によって、何名とかという思いをお持ちでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　いや、今すぐ何名ふやせということは、すぐは出ませんけれど。これだけの面積を持てば、20人定数の中で、アンケートにもあるように、議員の能力が低いのでということを基盤にして考えて言われているのかわかりませんが、議員の姿が見えないとか、議員は何をしているのかということも、主にアンケートに出ておりましたので。それは、議員は地域的なものではないと言いながら、総領とか高とか本町でも、ほとんどその地域に属している議員がいないということは、かなり議会が見えないということになるのだろうし。だから、今の面積で人口分布の状況からいえば、最低でも現状維持、できればふやしたほうが良いという結論になるだろうと思います。

○政野太委員長　國利委員、お願いします。

○國利知史委員　面積とか人口での意見ということなのですが、今、福山委員も言われたように、委員会を活性化させるという目的があるのであれば、この人口とか面積だけでは、判断しきれないところがあるのかなとは思っています。いろいろいただいた資料とか、インターネットとかで調べてみて、面積でいうと庄原市が全国の自治体13番目に大きいということで、前後5ずつ、大きいほう、小さいほう、5ずつ見てみても、人口と面積と議員数と照らし合わせてみても、本当にばらばらなので、この人口と面積だけを基準にというのはなかなか難しいのかなというところはありますけれど。かなり庄原市も広いし、そのほかの面積の基準に近い自治体がどういう町の配分になっているのかはわからないですけど、庄原市みたいに広くて、それぞれ町があるようなところでは、少なくするとなかなか厳しいのかなというところがあるので、今のままぐらいでいいのではないかなと思います。

○政野太委員長　先ほど福山委員も聞いたのですが、20名である根拠というものも示していかないとだろと思うのですが、その点について、何か思いはないですか。

○國利知史委員　これ以上少なくすると、例えば、今、既にもう議員がいないところが何かあるのが、さらに見えなくなるのではないかなという感じは受けます。

○政野太委員長　現状でいうと20人がミニマムの数字だという理解でよろしいですか。

○國利知史委員　そうですね。20名で。

○政野太委員長　福山委員。

○福山権二委員　定数を幾らにするかというのは非常に難しいことだと思うのですが、今、僕が言った、定数をふやしたほうが全市的な動きが議会も集約しやすいという発言をしたのですが、例

えば、20 を 25 にしても、それで本町に 2 人、総領から 1 人とか出る可能性があるかどうか言えば、なかなかこれは難しいところもあるのですよね。人数を 30 にしても立候補されなかったら、あるいは、それだけ定数の立候補があるかどうか、これはまた難しい問題でもある。1 番問題は、議会として、これだけ広い庄原市の面積を抱えながら、全地域に市民が大体住んでいると、過疎が進んだとしても住んでいると。過疎が進めば進むほど、その過疎の地域の課題も大きいわけで。そういう意味では、そういう条件がある中で、1 番今の庄原市議会が考えている中心は、委員会を活性化しよう。委員会でいえば、最低 6 人は必要だということ、20 というのを 1 つの到達点として、20 でやっついこうと。人口でいうと、例えば 17 とか 18 などたくさんあるのだけれど、面積のこともあったり、この議会の意思が、委員会を活性化させようということなので、そこに当面は固執して、判断基準を持っておくということにしかならないのではないかと思います。

○政野太委員長 前回、要するにどういう視点から分けた記憶があるのですけれど、きょうが、人口と人口密度、面積。次はどの視点か。係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 他の視点としての財政状況を。それから、あと議員のいない地域、先ほどからも御意見出しておられますけれども、旧町単位でおられない地域についてはどうなのかといった御意見があったかと思えます。

○山根啓荘議会事務局長 残っているのが、委員会構成と常任委員会の活動、財政状況です。

○政野太委員長 ということ、今、確認させてもらったのですが、先ほどから委員会のことが出ておりますけれども、委員会については、また別の日に、その委員会の視点からこの定数について話をしてみたいと思いますので、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長 それでは、堀井委員、お願いできますか。

○堀井秀昭委員 皆さん同じようなことを言われるから。反対はないのだが。他の要件については、また、次回検討される。今回、人口要件、面積要件合わせてということになれば、面積要件は、それに対して考えることはない。車で 1 時間以内に到達できる範囲内。決して面積によって議員定数というのは考える必要ないと思う。単純に言えば、人口要件で考えれば、全国的に見て、3 万前後の市町は大体定数を 16 から 18。単純に考えれば、それでそれらの町の議会が動いていないわけではない。議会を動かすことができる。それも 1 つの選択肢だと思います。

○政野太委員長 ですから、他の自治体の事例を見ても、人口的に類似団体については、16 から 18 名であると。だから人口によって、人数を、ある程度決めればよいという御意見でよろしかったですか。

○堀井秀昭委員 いや、人数において決めればよいと言っていない。1 つの要件としては検討に入るから、人数要件だけを捉えれば、そんなものではないですかと。

○政野太委員長 わかりました。もちろん人口要件からだけ考えたときに、定数と比較したときに、今、20 名にこだわることなく、16、18 名という自治体もあるということの御意見ということで。福山委員。

○福山権二委員 今、堀井委員が、面積は議員定数にはほぼ無関係だという意見だから、それはそれで私は関係があると言っているのだから、だから違った意見があるので、それは意見を議論したほうがいいと思う。

○政野太委員長 まずは御意見をいただいて、その後しっかり議論したいと思います。藤木委員、よろ

しいですか。

○藤木百合子委員 人口、面積。考える必要があると思います。広い面積というのも考える必要があると思います。議員の活動が見えないというアンケートの結果も多かったのですが、それは、人数が多ければ活動が見えるかという、そうではないと思うのですけれども、ある程度の人数がいないと、ますます議員は何をしているのか、議員はいなくてもいいのではないかとすることに傾いていくのではないかなという気がします。

○政野太委員長 先ほどから随時聞かせてもらっているのですけれども、今の20名という数字、福山委員は特にふやしてもいいのではないかという意見もあつたりするのですが、今の20名についての、何かお考えはないですか。

○藤木百合子委員 現在の20名も、合併とかいろいろな経過の中で、この20というところに、今現在到達しているのだと思うので、20人は妥当ではないかなと思います。

○政野太委員長 松本委員、お願いします。

○松本みのり委員 私は福山委員と大体似た意見なのですが、面積の部分も大きいと考えています。同じ3万2,000人が暮らしている町でも、面積が半分のところであれば、もう少し少ない人数でも回せる部分もあるかと思えますけれど。現地で何か課題があれば現地に足を運んで考えると、面積の部分も定数を考える要素の1つになると思います。あとは面積、人口密度などの話しかしませんが、なぜ、庄原市がここまで広大な面積になったのかというところが、1市6町で合併しているってところで。1市6町が1つの仕組みの中で動いているかというところではなくて、まだ旧町時代のそれぞれ違った仕組みも残しつつの1つの庄原市となっているので、それぞれの違いのことも学びながら、政策を考えないといけないとなると、20人ぎりぎりの人数なのかな、ふえてもいいかなと思うところです。

○政野太委員長 桂藤副委員長、お願いできますか。

○桂藤和夫副委員長 前回のときも言いましたけれども、人口とか面積というのは判断基準の1つだろうと思いますけれども、令和3年の選挙のときの最下位当選と次点の差が10票しかありませんでした。そういう状況の中で定数をいじるのかどうなのかなということを思っていますので。これは例えば、最下位当選と次点の人がかなり開いてということであれば、定数も考えなければいけないのかなと思いますけれども。そういう状況の中で、令和7年の選挙がどうなるのかというのは、これから先のことで見えませんが。いろいろな人口、面積の視点も重要な視点だとは思いますが。現状で、10年前の3常任委員会を残すために、定数を25から20にされたという経緯も、私は、当時は議員ではなかったのでよく存じ上げませんが。そういう議論を踏まえた中で、10年間たっていますけれども、まだまだ選挙でそういう状況がある以上は、現状のままでもいいのではないかなと考えております。

○政野太委員長 人口の視点からということでもよろしいですか。人口密度というお話でしたので、人口密度を検討してみました。面積は、言うまでもなく、非常に広い庄原市でございます。ただ、面積を考えたときに、人口密度というものを考えたときに、確かにこれは庄原市の1,246キロ平方メートルの面積を見たときに、そのうちの森林面積が約1,000キロ平方メートルございます。そう考えたときに、田も畑も多い。それほどこの市町も同じことなのですけれども、人口密度を本当に考えたときに、もちろん産業の部分から視点にすれば、森林の面積というのも重要。別の視点からは、また別の考え

方ができると思うのですけれど、まず人口と人口密度でいいますと、非森林面積、あるいは、田、畑を引くと、131 キロ平方メートルが大体居住地域。可住地面積というものがございませぬ。庄原市は可住地面積に対して考えたときに、人口密度を考えたときに1キロ平方メートル当たりの人口は247人となります。ちなみに、三次市を比較させてもらいました。それで、いわゆる可住地面積で計算をした人口密度でいうと、1キロ平方メートルあたりが366人の人口です。こういう視点から考えていくと面積が広いという、本当にその一言で収めてもいいのかというのが私の思いでして、その辺について皆さんも、また、御意見をいただければと思います。ただただ面積が広くても森林の面積が非常に多いというのが庄原市の特徴でございませぬので、その辺の視点を考えてみました。それに対して、議員の定数、あるいは、人口当たりの議員の数というのを計算してみたのすけれども、けさつくったので、理論立てて説明するのが難しいのですけれども、今、数字を出させてもらっております。配ってもいいのですけれども、まだ配れるほど数字がまとめきれなくて申し訳ございませぬ。それと、以前、この委員会が始まる前に、うちの里山みらい会議で話をさせてもらった中で、人口が多少増減していますので、多少は、数字は違うと思ひますけれども、県北3市を比較したときに、庄原市が人口約3万4,000、今、3万3,000少しくなっていますけれども、に対して議員20人、1,700人に対して議員が1人。三次市が約2,000人に対して議員が1人。安芸高田市が約1,700人に対して議員が1人。安芸高田市が16人ですけれども、これが庄原市とほぼ人口に対しては同じ数字となっていると。1人当たりの議員。議員定数で人口割ると、そういう数字になるという事実もございませぬので、人口の視点からいくと、先ほど堀井委員からもありましたように、他の市町と比較をすると、庄原市が決して少ないということではないのではないかなと、私は結論づけました。人口からすると。それから面積からしても、実は先ほど言った可住地面積に直してみると、庄原市の議員数は多いと言える比較をさせていただいております。ちなみに、うちよりもさらに議員数が多いと思われる地域が岡山県の真庭市。ここで言う可住地面積が120キロ平方メートルです。そのあたりで、いわゆる可住地面積に対する議員1人当たりの数が、議員数が5人が真庭市。庄原市は7人いると、1キロ平方メートル当たり。そう考えたときには、こういう数字も成り立つと。あるいは、府中市を計算したときに、可住地面積がここは非常に少ない、37キロ平方メートル。それでいくと、可住地面積に対して1キロ平方メートル後の議員数が2人、庄原市は1キロ平方メートル当たり7人いると。この視点からいくと、今の数字は少し多いのかなと、私は今、面積と人口だけでいうと、そういう答えを計算してみました。なかなか説明の全てが御理解いただけなかったかもしれませぬけれども、そういうのが私の意見でございませぬ。松本委員。

○松本みのり委員　　確かに、庄原市森林面積が物すごく広大で、ただ、森林の部分に森林だけなのか。森林だけで人が住まれているのかということの方が大きくて、ぽつんと一軒家みたいなどころがあるところもたくさんあるので、そこの住民の方をどうケアしていくのかということも考えると、本当に森林と可住地が1カ所にまとまっている場合と、本当に点在して、それを集めたらこの面積になりましたというのは、また違う話ではないかなと思っております。

○政野太委員長　　少し休憩をします。

午後1時25分　　休　　憩

○政野太委員長 それでは再開をいたします。福山委員。

○福山権二委員 少し前後しますが、今回の特別委員会は、前の議長のときに、あちらこちら議員定数を減らしたり、報酬も含めていろいろやっているの、少なくとも庄原もしないといけないだろう。だから、市民の中から何とかこの問題を解決してくれという声があってするわけではないのです。だから、そういう意味では、よそがしているからしないといけないだろうという発想から来たのですよ。庄原市議会の選挙が選挙にならない。無投票の選挙が2回続くとか、あるいは、いつも10人ぐらい立候補者が多いとかという大きな動機があって、今、動いているわけではない。今、松本さんが言ったけれど、委員長が説明したように広いのだけれど、人が住んでいるところは少ないのだと言うけれど、合併のときに、ある議員が調べてみて、合併した際に、庄原市はほとんどのところに人が点在でもいる。北海道とか、もう山ばかりでこれだけしかいない。同じように庄原市と同じ面積でも、人が住んでいるところは非常に少ない。そこは、同じ人口、面積でも若干違うのではないかと。だから、そういう人が住んでいる、住んでいないという前に、どれぐらい分布するかというのがまずないと、これは正確な判断基準にならないのではないかと思うのです。だから、一番大事なことは、たくさん人口があるところ、密集地はかなり活発だけれど、かえって過疎地のほうが、今でも食料を買いに行く買い物難民もどんどん出てきているし。高齢者にもう免許返せと言うし。返したのはいいが、多分、食べ物を買に行けないということがたくさん出ているので。そう意味では、都会でも田舎でも、そういう高齢者対策な大事なのだけれど、特にこの中山間地の地域は、周辺のことを考える行政をしないといけないので。そういう意味では、人口密度というのは、単純には考えられないと思います。

○政野太委員長 松本委員、福山委員のおっしゃることもよくわかります。ただ、私が今回調べた、あくまで面積の視点、それから人口密度の視点、比較をしたところも、恐らく新見市にも、ぽつんと一軒家はあると思います。だからそういう意味で、いわゆる単純にデータの比較をしたということで御理解いただけたらと思いますけれど。だから、どのようにケアしていくかというのは、また別の視点になるかと思うので、御理解ください。福山委員。

○福山権二委員 人口密度、面積を考えると、自分が、今、議員をやっている、これは人数を減らしてもいいとか、ふやしたほうがいいとか、このままでいいとか、考えてもいいと、自分の議員活動を、総括を自分で持っていてやらない。例えば、20だと、今、いや18でいいと。見たら2人ぐらい減らしてもいいのだと。それぐらい、例えば、働かない人がいるとか、いや十分に活性化になっているとか、何かないと。議員として。今の議会を見たときに、今の20をふやす、減らすについても、議会全体と個人の議員の議員活動の総括をしていかないと、これは市民が言うからとか誰かがこうするかとか、あちこちもそうになっているからとかいうことで、どうこうあんまり規制される問題、自分たちの主体的な総括の中で出てくるものだと思うのですよ。1番引かかるのは財政の問題で、ものすごく金がないときは仕方ないけれど。

○政野太委員長 福山委員、少しよろしいですか、全体的ないろいろなところへ波及した議論になっただけかもしれませんが、前回の委員会で皆さんの確認をとらせていただいたのが、市民アンケートをもとに、あるいは、また議員の皆さんの個人の考えをもとに、一つ一つ検証していこうということ

が、今回のきょうの委員会の目的でございますので。だから、決してその議員を減らそうとかふやそうとかという議論について、今、まだ始めているわけではございません。まずは、今現在、庄原市は20名ですけれども、定数が、その20名が本当に今、妥当な数字であるのかどうかという点について、人口の視点から、きょうは議論をいただきたいなと思いますけれども、よろしいでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　　だから、面積と人口は、今回の議論には全くその判断をする基準になり得ないというのが意見です。

○政野太委員長　　前回の委員会で、どういう視点から定数を決めるべきかということの中で、それが決められたものですから、例えば、福山委員が検討された結果、これは妥当ではないという理解でよろしいでしょうか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　要件として、意見を調整しながら、結論を出していかないといけない。福山委員が1人言ったからといって、そういうわけにはいかないでしょう。

○政野太委員長　　もちろん。ただ、おっしゃることもわかるのです。例えば、減らした16人の地域が本当に正しかったのかどうかということも、これは検証できませんので。ただ、僕もつけ加えさせてもらおうと、全てが同じような調査をしていない。いろいろな調査の仕方をされているのでわかりませんでしたけれど、例えば、これは議員の数字に直接影響するものではありませんけれども、庄原市はアンケートをとられておまして、どこの市町も大体住みやすさであるとか、そういったアンケートをとられている。それも一応、少し見てみました。庄原市、実は低いです。56%です。住みやすさ。すごく住みやすいという方とおおむね大丈夫という方を合わせて56%。それが府中市になると、実は95%なのです。いや本当なのです。2つを合わせるとそういう数字が出ているのです。市民アンケートで。ちなみに、雲南市が72%。北秋田市が63%。あと市町は拾いきれなかったのですけれど。何が言いたいかと言いますと、市民アンケートにもあったように、皆さんが先ほどからおっしゃるように、議員の姿が見えないとか反映されていないとかいう意見が多少多かったと思うのです。それが、住民アンケートの住みやすさというところにもつながってくるのかなと。ただ、解釈をいろいろ考えたときには、福山委員と同じような解釈も、僕も思っております。これ以上減らして、ますます市民の方の声が届かなくなるということは住みにくくなるということにもつながる。ということも、一応調べてみました。これも皆さんで、また御意見をいただければと思います。だから、決して1つの人口で人数を決めるというものではございませんので、それを踏まえて、皆さんの活発な意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　　活発に意見を言えというのだけれど、なかなか難しいですよ。実際のところ。実はね、16人でも15人でも、委員会をダブってやっではどうかと決めたら、本当にそれが社会一般に日本の地方自治体の議会として、それが一般的な常識になっているわけではない。例えば、総領で議員の顔が見れないというのなら、自分たちが出せばいいし、それからそういう提起があるのなら、受けてから、今いる議員が街宣車で回って、何か皆さん困ったことはなりませんかと毎日順番で行っていくとか。あるいは、山内に4人いるが、山内の人が本当に議員の顔がよく見えると言っているかどうか。多いからよく見えることはないし、少ないからといって、そこらはなかなか決めにくいのですよね。だから、アンケートを書いた人の自分の思いもあるし、頼んでも全然やってくれないと言っているのか、いろいろな会議とか地域行事に出て来ないから顔が見えないと言っているのか。顔が見えないとか議会が見えないということの定義というか、何ををもってそう言われるのかわからない。だか

ら、あまりアンケートは、参考にしないといけませんが、決定打にならない。そういう意味では面積と人口は非常に重要な大事な点だけれど、これをもとにしてものを決めるのは、議会の議員としての責任放棄だと思う。人口が減っているし、あちこち比べてみれば同じだから。

○政野太委員長 局長。

○山根啓荘議会事務局長 アンケートの話が出ましたので、少し参考資料を説明させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

○政野太委員長 どうぞ。

○山根啓荘議会事務局長 参考資料、令和5年7月7日というのがあるのですが、それを見ていただけないでしょうか。A4の横のものがあるかと思うのですが、これは先日、市民アンケートをとった結果の、問10の部分で、市議会議員の定数は、何を基準に決めるべきだと思いますかというので、本日は人口のところを議論していただいているのですが、全体としては、人口とお答えをされた方が41.39%ありました。そして、面積と答えた方が3.96、財政状況が21.98、他市と比較5.54、わからないというのも17%ぐらいありました。そういった状況なのですが、その年代別の内訳を見ますと、下に四角囲みで書いてあるのですが、年代別に見ると、30歳未満は財政状況を重視するという意見が多い状況です。それが、20歳未満の、例えば27.27、上の段になるのですが、表の1番右上に書いてありますが、表の上段が年代別の項目別回答数の割合なのですが、27.27、そして、20代が37.50ということなのですが、30代以上を見ると、45%とか47、46、47、39ということで、アンケートからすれば、市民の方は、人口というところを重視されているのだなということが言えるのかなと思います。

○政野太委員長 ありがとうございます。きょうは詳しく資料をまとめていただいておりますけれども、前回、そこは確認をしたとは思っておりますけれども、よろしいでしょうか。もちろんアンケートが全てというわけではありませんので、だからこそ、皆さんの御意見をいただきたいなど。福山委員にお伺いしたいのですが、例えば人口が今後2万人になったということについては、どうお思いですか。福山委員。

○福山権二委員 2万人になったという仮定を立てる時に、どういう形で2万になったのか。その3万が2万になっても、その1万減ったという中身は、点在でどこでも生きているけれども、密度が低くなったのか。ある地域がごっそりなくなったのかというのがあるので、そう簡単には3万が2万になったからといって、それだけでは大きくものを決定するという条件にはならない。

○政野太委員長 もちろん。だから人口の視点からというのが、きょうの話題ですから。

○福山権二委員 今、局長がデータを出されましたけれど、若い人は財政のほうに興味があると。だんだん、30代40代50代になると、人口を基準にすべきだというふうに出てくると。これをどう見るかというのも大事なことなのですよ。若い人は財政を気にしていると。一定程度人生を生きてきた人が、40代以降が、人数から考えるべきだと言っている中身が、これから何を酌み取るかというのも大事なことで、そこがよくわからないですね。人口を中心にと。この今の人口で20が妥当かどうかという意見ではないですね。人口をもとにやれと。この人口を基にやれというパーセンテージは、積極的に20を支持しているのかどうかわもわからないし。減らせと言っているかわからないし。人口で考えてと。ただそれだけですよね。

○政野太委員長 國利委員。

○國利知史委員 参考資料で思ったのが、20代とか30代、今、福山委員も言われたように、財政を気にしているという結果が出ているのですが、多分これは、今、若い僕らはすごい先行き不安で、もう今後、僕らどうなるのだろうかという不安ばかりがあると思うのですよ。だから、歳を重ねられた方は、その辺よりは面積重視になってくるし、若い方はこの先本当に不安だということで、財政を重要視しているという結果ではないかなと、僕はこれを分析しました。

○政野太委員長 もうおっしゃるとおりだと思います。若い方というのは将来に対する不安があるのではないかなというのが、僕もそういうふうに取り取るのですけれど。堀井委員。

○堀井秀昭委員 よく市民の方から不満の声を聞く。街灯1つでも、切れたからかえてくれと。予算がない。何か月も何年もかかって、ようやく街灯1つかえてもらえるような。それは財政状況が豊かとか言えない、庄原市。人口もどんどんどんどん減少しているし、他の市町では、もっと少ない議員定数で立派な議会議員活動ができています。庄原だけができないわけではない。何を基準にやるかということで、現在がベストかベストでないかということ自体も、このアンケート調査の中で読みとれない。だけど、それを決めないといけない、私たちはみずから。何を根拠に決めるかということとを協議しているわけだから。自分の感覚でばかり言わずに、さまざまな、いろいろなところからの視点を持って、検討に入らないと。それは、山の中へぽつんと一軒家があるかもしれない。何軒あるかもわからないけれど、そんなものが何軒あろうとも、庄原市全体の面積の中の割合からしたら、計算しないといけないほどの面積ではない。そうやって見ると、委員長が言われたような数字を基本にしないといけないのではないかなと言っている。そうは言ったがこうだろうという議論を重ねていると、人口にしてもそうだが、議員がいる地域は人口減少してないか、過疎からの脱却ができるか。そんなことは決してない。山内がふえているのは認める。板橋と。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 いや、確かにそうなのです。確かにそうだけれど、だからこそ、こう議論が定数を幾らにしますよと議会が決めるのだけれど、それを市民が納得できるようにしないといけないので、今、議論しているわけで。どういうふうに市民に納得できるように言うかというのを考えるわけだから、何が1番いいかと、今、考えるわけ。それは人口とか、密度とか面積でないと思っているのだけれど、堀井委員がそれは面積もいるし、そこは意見が違うのだけれど、そこは市民が、どちらがどうかといえば、アンケートを見たら、それは人口で考えろと出ていると。結局この議論は、最終的にどこへ行くのかよくわからないけれど。

○政野太委員長 いろいろな思いの中の発言というのが非常にあると思うのです。ただ、きょうの議論というのは、あくまで科学的データというか、分析されたデータというか、人口の数、それによっての議員定数、あるいは、類似団体との比較というのを、これまで皆さんにも資料を提供してまいりました。これらをもとに、どちらが正しいかどうかは、今の議論ではないのです。要は同じ類似団体で議員数が庄原のほうが多いか少ないかという答えではないですけれども、この一定の人口に対する答えを導き出していきたいなと思っています。ただ、最終的には、福山委員が言われているような思い、松本委員が言われた思い、こういったものがどれだけ委員会、僕の中では次の委員会の構成ということに入ってくるのではないかなと思うのです。市政に関することですので。そこで、また、別の答えが出てくる。要するに、人口によっては、人数は多いという答えが、きょう出るかもしれません。きょうか次の会議。ただし、ほかの視点、財政状況から見たときには、これは特に20名で問題ないよと

いう答えが出るかもしれません。委員会構成で言ったときに、減らすべきではないという答えが出るかもしれません。最終的に、また答えを導き出すのが、この委員会の役目でございますので、その点、福山委員、理解をいただければと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員 委員長の考えのとおり、そこのところへどう答えを導くかいうことを議論しているわけで、本来は元に戻らないといけない。議会は何のためにあるのか。特別会計を加えたら400億を超す財政運用の監視、行政執行の監視、行政への提言、そこら辺の議員として議会としての本来の職務、職責を果たすために、庄原市議会としては何人の議員が必要だという確固たる根拠をつくり上げようと言っている。でない、現状のままでいいではございませんかという結論には至ることができない。減らしてもいい。減らしたらできないと何を根拠に言っているのか。

○政野太委員長 松本委員、何か御意見ないですか。これまでの話の流れで。

○松本みのり委員 悩んでおります。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 減らしたらできなくなるということに何の根拠があるのかと言われるけれど、では、堀井議員が今の中で、みんな一生懸命やっているから、減らしてもいいと言うのか。いや、働いていないのがいるからもう少し働けと言うのか。そういうのを持たないと、減らして、なぜできないのかとそんなことを聞かれても、それは減らしてできないという根拠を言えと言われても、それはそれなりに一生懸命やればいいのか、それができているかできていないかは難しいけれど。

○政野太委員長 その議論はまた最後の議論でよろしいでしょうか。

○福山権二委員 そんなことを言っていたら、全員が毎回一般質問もしていないのに、ものを言うなど言われたらどうするのか。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 問題は、きょうは、定数の問題を考えるのに、人口というものをどのように考えて捉えていくかということの結論を出せるものなら出したいということなので、これから先も庄原市の人口がふえればふえて、減れば減って、議員定数というのは、常に議会としては考えていかないといけない大きな課題であるから、ここで、今現在、3万2,000人ぐらいの人口で、適切かどうかというところで結論を出したい。國利委員に教えてもらったのだけれど、1,600人ぐらいだったか、庄原市は。

○國利知史委員 令和5年の何月かわからないですが、3万2,334というデータがあって、4月ですかね、議員が20人で、現時点で、人口1,616人の中に議員が1人。面積と人口が似ているところというと、北秋田市が人口2万8,868人で議員が18人。1,603人に1人の議員ということなので、北秋田市面積と人口が類似しているところで、ここだけでいうと、同じ人口の割合に1人いるかなというところですかね。いろいろ調べて、類似しているところを見てみたのですけれど、大体人口がやはり多いところは、例えば、富山市は庄原市のすぐ下なのですけれど、順位が、面積でいうと。人口が40万いるのですよね。そうすると、人口が多いところは、議員1人に対し、住民が1万人いるのですよ。だから、先ほど僕も言ったように、一概に言えないとは思いますが、面積が庄原と同じぐらいでも、その分人口が多ければ、議員1人当たりに対する市民の数も多いし、なかなか難しいけれど、この北秋田市の例で見ると、人口、面積同じようなところでいうと、同じぐらいの比率かなと。一応計算上はなっているのかなと思いますけれど。

○政野太委員長 僕も同じことを調べているのですが、調べた時期が少し古いので、少し違うのですけ

れど、庄原、これは小選挙のことは考えないので、それは参考にならないかもしれませんが、一応参考にしてください。旧庄原市の面積が243.5キロ平方メートルです。その中に議員が8名いらっしゃる。ということは、議員1人あたりは30キロ平方メートルが、いわゆる面積で比較するとそうです。東城町が304.9キロ平方メートルに対して議員が5人、議員1人あたりが60.9キロ平方メートル広いです。西城町が226.9キロ平方メートルに対して、議員が3名。これ議員1人あたり75.6、2番目に広いですね、1人あたりにしたら。口和町が110.1キロ平方メートルに対し議員が2名、議員1人あたり55キロ平方メートル。高野町が面積159.1キロ平方メートルに対して議員が2名、1人あたり議員が79.5キロ平方メートル。これが旧市町7市町の今の庄原市の実態です。面積から考えると。小選挙というのは、今、議論しているわけではないので、余り参考になるデータではないかもしれませんが、実際に皆さん選挙エリアと言われる、ほとんどの皆さんがこの平方メートルが非常に重要になってくるのではないかなとは思いますが。あとは人口、これも旧7市町で考えてみたのですけれども、庄原市が、今、人口が1万7,000人に対して議員が8名。庄原市においては2,166人に対して議員が1名。東城が7,190人に対して議員が5人。議員1人あたりの人口は1,438人。西城町が3,160人に対し議員が3人ですから、議員1人あたりが1,054人。口和町が1,878人に対して議員が2名ですから、議員1人あたりの市民が939人。高野町が1,605人に対して議員が2名ですから、1人あたり802人。比和町、総領町はゼロと。こういう数字もあります。だから、庄原市の議員の8名の方が、1番多い市民の割になるという答えが出ました。参考までに、聞いていただければ。先ほど言わせてもらった、調べたデータ、人口密度から考えたときには、正直言いました、最初言いましたが、庄原市の議員は他自治体と比べたときには多いです。これは間違いありません。だから、それが正しいか正しくないかというのはこれから答えを出していきたい。最終的には、ただ、人口において、他自治体と比較したときには多いというのが事実なので、面積に対してもそうです。これは事実です。次の議論になったときには、また違う答えが出ると、私は思っていますけれども、その辺について皆さん、どうでしょう。何か。福山委員。

○福山権二委員　　比べて、議員の数が多という結論が出ましたよね。それで、庄原市民が幸せか不幸せかというところが問題なので。

○政野太委員長　　先ほどつけ足しましたけれども、決してそれがイコールではないということだけは御理解ください。ただ、事実の数字はそうだということです。局長。

○山根啓荘議会事務局長　　きょうは人口というところで議論をしていただいているのですけれども、私も4月から来たばかりで、少し議論がわかっていないところもあるのですが、人口というのはこれから減少していくということがあるかと思うのですが、この議員の定数というところを考えるのに、何年の何年までをみられて、考えているのかということも、明らかにしておかないといけないのではなからうかと。例えば、次期の4年間を見据えて考えているのですよとか、いやいやそうではなくて、向こう8年間を見て考えているのですよというところは、議員の皆さんどのように考えておられるのかということも議論をしておいていただければと思います。

○政野太委員長　　当初の、この会議が立ち上がったときに、実はそのことは話をしていないのですね。この答えによって、例えば、ただし、これから先、人口減が著しく進んだ場合とか、そういったときの対応というのが最終的な報告の中に入るのかなと、私自身は考えていたのですけれども、今現在で、もうこの計画は、これから4年間だけのものだと決めたほうがいいですか。これはもう当初決めてい

ないので、僕は、今、決める気はないのですけれども、福山委員。

○福山権二委員 10年先まで決めるのは権限外で、今の我々の任期のうちに、次の市議員選挙ではふやすか減らすか、そう決めといて対応しよう。それが、今の我々の責務であるし、権限だということになっているので、当面は次期の市議員選挙にどう提言をするか、まとめるかという範囲でいいのではないですかね。

○政野太委員長 よろしいですか。今の福山委員の御意見、私もほぼそれなのですけれども。例えば、1点だけ、その視点から皆さんに御意見いただきたいのですけれど、ずっと20人ですか。例えば、何かの条件、何かのきっかけで定数を減らすとこういうこともやむを得なくなるのではないかという条件については、何か、人口と面積に関してです。

○福山権二委員 それは、どうかわるかかわらないので、ここでこうなった場合こうだというのは難しいと思います。

○政野太委員長 ほかに御意見ないでしょうか。國利委員、どう思いますか。

○國利知史委員 市として決めておけばいいと思うのです。どれぐらいを下回ると定員を減らしましょうとか、そういう基準を決めておくと、今後何年後にこれだけ減ったから、これだけにしますよという基準を決めておけばいいのかなとは思うのですけれど。個人的には、

○政野太委員長 議長。

○林高正議長 人口減少が進んできたら、行政機構も改革していかなければいけないし、議員というものが存在しなくなるかもしれないし。そんな議論を、今、ここでしてもナンセンスだろうなど。だから現状は、先ほど福山さん言われたけれど、私たちは先の先のほうまで考える必要はないわけで、当面、適正かどうかというところでいいのではないかなと思うのです。よその三次市とか廿日市の分を読ませてもらっても、ここも決定打などないのだから。それぞれの市町が考えてやるというしかないわけですから。昔は、人口規模で全部くられていたけれど、自分たちのことは自分たちで決めなさいとなってきているわけですから、そういう議論を続けなければならないのではないかなと、私は思います。

○政野太委員長 議長はおっしゃいますけれど、私が質問させてもらっている意図、最終的に委員会としての報告を議会に、あるいは、市民に報告しなければなりません。それに対して、あらゆる可能性を探っていくのが、今の委員会の立場ですから、そういう意味で聞かせていただいておりますので、その辺御理解いただきたいと思います。議長。

○林高正議長 それは十分理解しているのです。

○福山権二委員 人口、面積、自分たちで考えたらいいのだけれど。実は、庄原市を挙げて人口をふやすことが最大の課題だと、全精力で人口をふやそうとやっているわけですよ。我々も、その方針を、議会としても妥当だとして、それをオーケーしている。財政の計画も全て。それが我々の立場なので。実際人口がふえているところもあるわけですよ。よそから来るところもあるし、高野、山間地域から出てくる人もいるけれど、ふえてはいないけれど、地域がふえている。しかし、他の自治体から来ているところもあるので。そういうことを、輝かしい前進をしているところもあるし。それを議会としても最大限推しながら。もう人口減るものだと。市長もものすごいふやそう、ふやそうと言っているけれど。子供からいえば、何年先は減るのだからと統廃合を進めたり。ああいうダブルスタンダードをするからおかしくなるわけで。ふやそうというのだから、ふやすことに全力を挙げて、結果的に減ったというのは総括すればいいわけで。だから、今、人口と面積が非常に重要な要素だけれど、これ

ほど市を挙げて、全市一丸となってふやそうと言っているときに、私たちがそれで左右されて、ふえないから減らそうみたいな議論はしないほうがいいので。いや、考え方ですよ。我々もきちんとやっているし、誰から言われても、今のこの定数は守ろうとか。もうどどん人数がふえてふえて仕方がないから、議会は少なくともいいというなら別だけれど。そういう、市民が指摘もしていないし、アンケートをとったらこういう結果になったけれど。ということを考えて、今、議長が言ったように、自分らで考えることをしたほうがいいと思います。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 この定数が20に下がったのは、いつか。

○政野太委員長 執行が25年。

○堀井秀昭委員 25年の人口は、どっちにしても3万7,000から9,000の人口のときに、議員定数を20というのを正解として、議会はみずから。それから、7,000人減っていれば、何%人口減少があったか。そこら辺を無視して、3万9,000人いたときと、3万2,000人になった今と、議員定数は同じでいいのではないかと、それをまともに、裏づけをつけずに押し通したら、それはおかしい。それなりの理論づけをしてもらわないと、私は納得できない。なぜ減らせないのか。何の変更もしないでいいではないか、今のままでいいだろうという感情的な議論だけで進めてしまって、決めたのはいけないでしょう。

○政野太委員長 松本委員。

○松本みのり委員 人口7,000人から減ったので、この市が抱える課題がそれだけ減ってきたのかという部分も考えていかなければならないなと思っております。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 堀井委員が言うのは、非常に無機質。数字でいえば、それは反論できない。これだけ減っているのに、同じでいいのかと言われたら、そう言われても、さすがに説明しにくいところはあるので。ただ、減ったのだけれど、議会がどうかかわったか。行政がどうかかわってきたのか。市民がどう考えてきたのか。それで、さらに、全体の経済情勢、社会情勢が、田舎から出ていく。高齢者が死んでいく。そういう環境がなぜできたのか。では、今、ふえているところは、全体の中で、都会から田舎にどんどん移っていこうという情勢もあるのではないか。そういうことも考えて、単に巨大な人口の減少があったから、それを論破できるのかと言われたら数字だけいったら、これは難しいですよ。そうしたら、2万人になってもいいのかというのと同じだから。だけど、私たちは考えないといけないのは、どういうふうにもっと有機的に、複合的に考えて、これから先は何としても阻止しよう。今、3万2,000だが、ふやそうと。前は人口が多いところへ行って、企業誘致したりやっていた。今、そんなこともキャンペーンをしているし、田舎へ来る人もだんだんふえてきているので、条件を整えば。都会などには住められないから、食糧が調達できない人がいっぱいいるわけだから。田舎へ必ず来るからということを、展望を持ちながら、頑張ろうというふうにしたほうがいい。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 異論はない。報告書に向けて、今の福山委員の発言を報告書にまとめてもらう。

○政野太委員長 坂本副議長。

○坂本義明副議長 人口を、今回話し合いされているのはわかるのだけれど、政治というのは人口だけではないと思う。幸福度の問題だから、幸福度をどうやって高めていくかとなると、これは議員が減

ることに対して大きな問題だと思う。もちろん議員の20のうち、3人も4人も役に立たないという人がおられるなら問題があるかもしれないけれど、それなりに一生懸命されるし、それぞれやってもらわないといけないのが大前提だから。人口だけを議論するのは、議論をしてもいいと思うけれど、ある意味では、政治として話をするのはナンセンスだと思う。

○政野太委員長 改めて御説明しますが、もちろん最後の答えはそうです。坂本副議長がおっしゃるとおりです。ただ、それに対して、人口に対して、今の人数がどうなのかという議論が今回の会議です。坂本副議長。

○坂本義明副議長 もちろん適切だと、私は。

○政野太委員長 今の人口に対してと。その人口に対して例えば、先ほどから話が出ておりますが、ふえるということもあるかもしれませんが、ふえたら議員をふやす。減ったら議員も減らすということよかったですか。坂本副議長。

○坂本義明副議長 本当に20人は必要ないという話になったときは、そのとき考えるべきであって、今はそれは違うのではないかと。そのまま、今やって十分であるし、ふえたからといってふやす必要はないと思う。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 副議長のような言い方をされるのなら何も考えることはない。こんなことをやっていることはナンセンス。そうではないだろう。前回の議員定数の変更をしてから10年の経過を見て、庄原市全体の状況を見て、社会情勢を見ながら、今現在、次の選挙に臨むのに、議員定数は何人と定めるのが庄原市として1番正しい方向なのかということを検討しているわけで。人口の要因は1つの大きな要因だということで議論しているのだから。人口によって左右されることはないというような、これはもう人口は議員定数の要因に入れられないとされている。関係ないと。では、今のままで20人が、さっきも福山委員に聞いたけれど、それが最適だという根拠は何ですか。

○政野太委員長 坂本副議長。

○坂本義明副議長 議員の仕事というのは市民の幸せな生活を守ることが一番だと思うのです。そのためにも議員というのは、今おる20人で最適だと、私は思っているということよかったです。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 ああいうふうに言われたら、私は16人でも18人でも、今ぐらいの状況で市民を守ることが不可能ではない。できると思いますと、私は言い張る。双方の意見はすれ違う。重ならないことになると結論を出せないということになるから。

○政野太委員長 副議長がおっしゃるのも福山委員がおっしゃるのも、最終的な結論はそうなる場合もあると思っています。ただ、そこに結びつけるために、この人口に対してというのを個別に話をしているのが、きょうの会議であって、前回の申し合わせだったと思っております。だから、今、実は皆さんの意見を聞かせていただいて、國利委員が、いろいろなデータに基づいた根拠もお話いただきました。私からも提示をさせていただきました。このデータをもとに、今の20名が妥当であるという答えを何に対して結びつけるかということなのです。今後20名が妥当か妥当でないかというのは自分の中には答えを持っておりません。他団体と比較したときには多いというのが事実。ただこれだけです。きょうの時点では、比べた団体が悪いのではないかとということがあれば、御意見をいただければ。きょうの答えは、多分、國利委員の数字を見ても、正しい答えというものは出ないと思います。た

だ、他団体と比べたときには、類似団体と、間違いなく、今の庄原市の20名は多いというのが現実です。福山委員。

○福山権二委員　　そういうふうに話を持っていくと、市民に対して、さまざまな意見があったときに対応できない。20という定数について、根拠を持たないと言われたけれど、20に決めたときに、議長も言ったけれど、委員会を中心にやろうと。委員会は3つ持とうと。それで、特別委員会を持たなくても委員会を最大限活用して活性化していこうという方針を出して、ならば委員会は最低6人はいると。7人、8人もいいけれど、最低6人は確保しよう。委員長がいて副委員長がいて、採決は5人だと。それでも5人が一生懸命やって、委員会制度を重視する。そのためには、20がどうしても必要だと。それが議会として市民に対する約束だと。この20人で委員会を活性化させて、市民の負託に応えるということを決意して20ということを決めて、市民に説明したわけですよ。だから20は正しい。これを超える根拠は定数からいうと、今ない。

○政野太委員長　　堀井委員。

○堀井秀昭委員　　福山委員らしくない。きょうは委員会構成の議会運営上のことは協議していない。人口。私は今でも思っている。市民から選ばれる議員の定数は、人口によって、多い少ないが定められていくべきだと。基本は人口にあるのだらうという考えは、今でもずっと持っている。そうすると、20人を定めた10年前から、3万9,000人が3万2,000人になって7,000人、人口が減ったということ、議員定数を考えるときに無視はできないだらうと言っている。それを無視しようという意見が出るから、何なのだとそれとは言っている。無視したらいけないだらう。

○政野太委員長　　福山委員。

○福山権二委員　　それは全く同感ですよ。確かに大事なこと。ただ、最低限の議会の権能を活性化するために。

○堀井秀昭委員　　それは次のときに。それは、今言ってもいけない。

○福山権二委員　　人口も関係もします。同感です。人口は重大なファクター。

○堀井秀昭委員　　重大な要件であることは間違いない。

○福山権二委員　　それと、今、庄原市をどう見るかは違う。

○政野太委員長　　この結論も出していないといけないのですが、何か、御意見があれば、おっしゃっておいほうがいいと思いますが、いかがでしょう。議長。

○林高正議長　　蒸し返しみたいなことばかりになるのだけれど、それぞれ分けて、人口とか面積とか財政とか何とかとやっているけれど、ばらばらでは、私もうまくいかないだらうと思うのですよ。いろいろなことが、三次でも廿日市にも書いてあるけれど、実際に議会費が何%になっているのかとか、そういったことで、庄原の財政指数からいったら、それは議会費はよそに比べたら高いわけで。そうかといって、財政が豊かなところというのは、お手盛りで議員の報酬をぼんぼん上げて、首長がしたいことを多分やられているのだらうと思うし、そんな議論などは全然向こうはされていないはず、はっきり言って。だから、この中山間の庄原市の適正をどこに求めるのかというのがメインにあって、やるべきで、先ほどから福山さんと堀井さんの話を聞かせていただいていると、行ったり来たりしているけれど、区切ってやるという難しさというか、それは矛盾してくるのではないかなと思います。蒸し返してごめんなさい。

○政野太委員長　　本当に、僕も堀井委員も同じですよ。それを言えば、全てのことをトータルで話をす

れば、それはできるのかもしれませんが、それでは、市民の方に何の説明もできませんよ。10年前の20名の根拠まで出していかなければいけなくなります。だから、それで今回の委員会は、こういうふうに分けて、一つ一つ根拠を積み上げて。だから最終的な議論は、恐らく今、皆さんが言われているような意見の交わしあいになると、私は思っていますけれど。ただ事実、市民の方が人口をもとに決めるべきだと言われているだけで、先ほど福山委員が言われたとおりなのです。市民の方、20名がいいとか25名がいいとか15名がいいとかなどと言われていませんので、今回は、それは問うていませんから。もちろん、その答えを市民の方が出されるとも、私は思いません。ですから、そこら辺については御理解いただいた上で、この一つ一つの根拠を積み上げていきたいと思っていますのですけれども、何か御意見いただきますようお願いいたします。ちなみに、もう僕も減らしたいとかふやしたいとかいうことは、委員長として思っておりませんので、ただ事実を積み重ねていった上で、これを市民の方が聞いたら、減らせという内容がここで煮詰まってもかかわらず、維持をしていくための理由が要るといことなのです。もし、そういう答えが導き出されるのであれば、もちろん先ほどから林議長が言われるように、人口1つとってみても、先ほど僕が言いましたように、人口比率でいうと庄原市は非常に議員が多いかもしれません。ただ、それに対する満足度は非常に低いのが庄原市の実態ですから、議員はもっと仕事すべきであるという答えを導き出せば、他団体と比べれば少ないけれども、もっと議員が活動できる余地があるという答えに、僕は結びつくものだと思って、皆さんの意見を聞かせてもらっているのですけれど、何かございませんでしょうか。

○松本みのり委員　先ほど2万人になってもこの20人でいくのかという話もあったのですが、私も2万人になったときにも、20人でいいとは思っていません。ただ、2万人になるかもしれないところに向けて、解決しなければならないことが山ほどあって、公共施設も今のままでいいのかと。1市6町で合併して、他の自治体と比べても、物すごい公共施設の面積とかも広いですし、そういったのも一つ一つ、この定数についても皆さん財政状況を心配されていると。今の財政が、本当に無駄なくびっちりやって、もう減らせないところまでやっているのか。この少ない中で、1番効率的な使い方をされているのか。そういうところをきちんと見つめて、安心して次の世代に送れる形を、この20人でやっていって初めて、減らせるのかなと思って。もっともっと、人口で減らしますではなくて、活性化させて無駄をなくして、それで次の段階にいけるのかなというのを、今、考えています。

○桂藤和夫副委員長　人口問題だけ捉えていくと、約7,000人近くの方が減っているのですけれども、10年前の高齢化率と現在の高齢化率はかなりかわってきていますし、人口が減ったといえども、我々の責務というのは市民の福祉の向上をいかに追及していくかということが原点になるのではないかと考えていますので、そういう意味で言ったら、10年間から単純に人口が減ったというだけではなくて、人口の構成の中身なども含めて議論をすべきではないのかなということを思って。あまり詳しく調べていませんけれども、恐らく、庄原市の高齢化率46%ぐらいになっているのではないかなと思いますし、比和町は56%になっていますので、町によってかなり格差が出てますし。町なかには比較的若い方がいらっしゃるのかもしれませんが、なおかつ、外国人も5月末で498人ぐらい庄原市に来ておられますので。いろいろな視点から考えていく上では、単純に人口が減ったからといって、そこだけ捉えていくと、堀井委員がおっしゃったように減らせということになるかもしれませんが、そういう人口構成の中身も含めて、市民が、そういう意味で言ったら、幸福度が感じられない人が結構いらっしゃるのかなということも思いますから、議論の視点の一角ぐらいに入れてもら

えたらいいのかなというのは思います。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 高齢化率が高ければ、低ければ、議員定数へどうだと言うのか。何に関連するのか。

○政野太委員長 副委員長。

○桂藤和夫副委員長 状況を踏まえたときに、買い物難民がふえているとか、免許返納者がふえているとかいうこともありますから、その辺を含めて、いろいろな議論の中で、そういう視点も入れてもらったらいいのではないかなと。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 行政の施策やら、住民ボランティアの活動等の支援とか、それは行政政策的にバックアップしていかないといけない問題があって、議員の定数で多かったらいいけれど、少なくなったらいけないという、そういうことに関係するのか。

○政野太委員長 副委員長。

○桂藤和夫副委員長 市民の声をもうちょっと我々も聞いてまわらないといけないのかなという視点で言えば、その辺が足りていないのかなということ。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 私はあまりきれいごとに固執したくない。いろいろなことを言えば、誰だって言う口を持っているから好きなことを言えるけれど、人口の多い町が議員定数が多くて、人口の少ない町が議員定数が少ない。これは現実、全国そうなのです。そうすると議員定数を考えるときに、人口を1つの要因として大きく捉えないといけないということは、現実だろうと思います。人口の減少や増加が議員定数に関係ないという言い方をされる皆さんの根拠というか考えがよくわからない。それは1つの大きな要因として検討して、なおかつ、これぐらいの人数がこの町には議員として必要だという結論に至るのなら、別に私は減らせと言っているわけではない。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 この委員会の中で、人口が全く議員定数に無関係だという発言はあまりないと思う。議員定数は人口にも左右される。それは重大な根拠になり得るというのは当然そうだろうと。だからこそ、日本全国で地方自治体を見ても、それがリンクしているのは間違いない、事実として。だから、我々はそこを否定するつもりはないけれど、人口ということについて、捉え方について、これから議論して、どういうふうに人口の現状と、庄原市としての定数は特殊なケースだから、どこでも特殊なケースだから、それぞれ考える。その中で、うちの特殊なケースを、人口を考えてやろうというのだから、意見一致しているではないですか。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 大体、意見はあまりずれてはない。あまりずれてはないけれど、現実には7,000人の人口減があったこの状況の中で、市民のためとか、行政を監視、監督するために、議員が20人は必要だということをどのように考えを出そうかと、私は言っている。7,000人減ったぐらいは関係ないと、定数は今のままでいいよ、そんな乱暴な議論はできませんよと言っている。人口は大きな要因として、それを覆す議員定数の人数の確定の根拠というものを導き出そうと言っている。その中で、高齢化率がどうのこうのいうのは関係ないと思う。年寄りが多いから議員がたくさんいるのかと。年寄りが少ないければ議員は少なくてすむのかという、そういう問題ではない。

○政野太委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 人口だけで考えれば、10年前に20人と決めた根拠は人口で決められたのかもしれないのですが、高齢化率が高いよということはそれだけ人口だけではなくて、庄原市が抱えてる困難性というか問題が大きいということにつながると思うのですね。そういった困難性が大きいところを解決していくには議員の活動、議員の数も関係してくると。人口だけとか面積だけとかそういうふうに分けて考える、その根拠、論点としてというのはわかるのですが、先ほども議長が言われたように、それだけではなくて、他の要因も考えないといけないということの1つに高齢化比率も結構大きな問題だと思います。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 全く違う意見で、今、議論になっていることと全く違うのは、高齢化率が高いから、そのことを議員定数の根拠にすべきだという意見があったので、それは違うのではないかと申すだけで、それなら小学生の子供が多いかったら、それだけが理由になるのかどうか。だから、人口全体として、それを包含して、それが左右するというのはそうですよ。だから、高齢化率が高いから、市民の要求、要望がかなり多様になるので、対応しないといけないということを考えると、どうも訳がわからなくなる。ただ、人口で考えるときに、私が気をつけないといけないと思っているのは、例えば、この前出雲で何か大きな会社が、1万人ぐらいの会社が倒産して、すごい人口が減ったのですよ。その98%が外国人なのです。もう倒産して初めて人口が減りましたと見たら、その会社が解雇整理したからということもあるので、そこも考えて人口の増減はよく考えようということが、一般的な意見でいうところまでどめたほうがいいのではないかと。だから、人口は非常に重要な議員定数を決める根拠になり得ると。市民全体の合意を形成するのに、そういう、議会も責任の持ち方をしようというのは当然だと思います。無視してはいけません。

○政野太委員長 恐らく共通の認識として、人口が関係ないということはありません。皆さん理解いただいているのだと、私は思います。その上で、細分化しての議論をしておりますので、きょう、いろいろな意見が出た意見については、また次の議論の中で、意見を交わしていきたいと思うのですが、当初この委員会が始まって、きょう10回目ですが、最初からどういった視点で検討していくかということをお客様に確認をしております。その中に他団体、他自治体というのは、当初からこの委員会での発言のもとで、この10回を迎えております。そのために事務局でも多くの資料を準備いただいております。いま一度、その資料も御確認をいただいて、庄原市の20名の現状が本当に他団体と比べて、今、多いのか少ないのかという視点も、これまで積み上げてきたものですから、それについてももう一度御議論いただきたい。きょうは恐らくこれ以上の議論にはならないと思いますので、私が先ほど言いましたとおり、私の今の答えは、他団体と比べて庄原は、面積に対しても、それから人口に対しても、議員が多いというのが、実際の事実のデータとして出ております。ただ、市面積については、居住面積にして直しておりますので、そういう答えが出ておりますけれども、もちろん森林面積全て加えれば、そういう答えでもないと思います。その辺だけもう一度皆さんで御理解をいただいて、きょうは多分これでこの状態で答えは難しいと思います。次回の会議で、冒頭から、その答えに対して結論づけていきたいと思いますが、いかがでしょうか。しっかりと今まで配った資料、もう一度目を通していただいて、この人口、面積に対しての考えをおまとめいただければと思います。よろしいですか。國利委員。

○國利知史委員 前回、定数削減したのが25年。そのときに、どういう基準で、例えば人口とか面積、今、議論していますけれど、そのときには、それは議論になったのですよね。もちろん、なっていますよね。それは、人口がやはり減ってきているから。

○政野太委員長 最終報告にはその文言がありました。議論は

○林高正議長 それは当然したけれど、最終的には、福山委員がずっと言っている常任委員会の数で行ったというのが最終結論。

○政野太委員長 そういうことで、きょうのところはこの程度にさせてもらってよろしいですか。
〔「はい」と呼ぶ者あり〕

2 今後の審査について

○政野太委員長 次回の会議においては、今から日程を決めますけれども、もう冒頭から、もう一度、きょうの趣旨を御理解いただいて、これまでの積み上げも御理解いただいて、御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願います。藤木委員。

○藤木百合子委員 テーマは、常任委員会と。

○政野太委員長 いえいえ、それについても相当深くなると思われるのです。その議論が。きょうのものを一旦まとめたほうがいいのではないかと思うのですよ。きょう、本当はまとめていきかけたのですけれど、よろしいですか。一旦もう一度資料、見直していただいたほうがいいのではないかと思うので、もう一度時間をとりたいと思っております。次回もちろん財政状況。財政状況については、資料が、どの資料をもとに皆さん検討するかなのですけれども、例えば議会費の比較とかは多分ないと思うのですが。それから、他の自治体の、いわゆる皆さんの意見の中で、こういう数字を出してくれということで、これまでの資料に出していますので、財政指数を。それをまず、もとに検討していただきたい。ですから、財政状況と常任委員会。これについてのまとめまで至るかどうかわかりませんが、意見についてももちろん検討しておいてください。そこにできれば入りたいと思っております。休憩します。

午後2時40分 休 憩

午後2時40分 再 開

○政野太委員長 再開をします。一応19日の午前中ということで、決めさせてもらいたいと思っております。10時で。それでは次回、7月19日、水曜日の10時からということでお集まりいただきますようお願いいたします。係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 御説明が遅くなったのですけれど、本日の資料としまして、参考ということで、三次市と廿日市市が同様に定数等について議論された報告書をまとめておられます。そのデータを一応掲載させていただいております。最終的に報告となると、もう少し先にはなるのですけれども、皆さんも早めにイメージをつかんでいただいて、こういった形で議論をまとめていかれるかという参考にしていただければと思います。それからもう1点、市民アンケートの集約が済んでいます。この議論の材料にも随分させていただいているかと思っております。こちらについて、議会のホー

ムページにおいて公表をそろそろ考えているのですが、そのような形で実施させていただいてよろしいでしょうか。

○政野太委員長 皆さん、何か議論がございますか。よろしいですかね、もうホームページに公開させていただきます。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長 では、公開をお願いします。

3 その他

○政野太委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長 以上で、本日の特別委員会を終わりたいと思います。お疲れさまでした。

午後2時42分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長